

令和3年度第1回射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会  
(書面開催) 会議録

1 開催日時

令和3年9月30日(木)～令和3年10月15日(金)

2 委員(12名)

宮嶋会長、門田副会長、若林委員、佐野委員、中川委員、牧野委員、山崎委員、松浦委員、森山委員、砂原委員、武部委員、冨田委員

3 報告事項及び会議資料

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について 資料1

地域づくり計画表 別紙1

(2) 射水市地域支え合いネットワーク事業の周知について 資料2

射水市地域支え合いネットワーク事業実施地区一覧表 別紙2

射水市地域支え合いネットワーク事業周知用チラシ 別紙3

(3) 第3層生活支援コーディネーター研修会について 資料3

4 書面開催概要

令和3年9月30日、委員宛てに上記報告事項について書面にて報告し、意見の回答を依頼した。9月30日から10月15日までの期間中、委員12名から回答を得られた。委員からの意見及び質問を取りまとめ、委員に送付した。

5 委員からの意見及び質問

別紙のとおり

(1)射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について

意見	質問	回答
<p>地域ふれあいサロン（以下：ふれあいサロン）は、事務担当者の高齢化により、サロン数が減少している。 また、参加者がきららか射水100歳体操（以下：100歳体操）のグループと同一の場合、ひとつの事業になればよいとの意見がある。</p>		<p>事業趣旨の重複による混乱や今後の担い手確保に対する懸念等の課題解決を図るため、各地域活動支援事業の連携体制の確立を図っている。</p>
<p>100歳体操とふれあいサロンは各町内で開催されているが、いずれも20名前後の参加で、趣味活動の団体であり、地域課題の議論には至っていない。 町内会長による温度差も考えられる。（地域づくり計画表も見たことがない。）</p>		<p>地域支え合いネットワーク事業（以下：支え合い事業）実施地区の取組状況には少なからず温度差がある。市として、住民主体で地域課題を捉え、解決に向けて考え実践していただけるよう、事業の周知等をこれまで以上に図っていききたい。</p>
<p>シルバー人材センターでは、高齢者の社会参加を促進し、生きがいの充実、健康の保持増進等、地域社会の活性化を目指している点で、支え合い事業の目的と共通する所が多いと感じている。 支え合い事業では、地域性に応じた多様な取組を地元関係者とともに取り組んでおられることが素晴らしいと感じる。 支え合い事業とシルバー人材センターの連携を図っていききたい。</p>	<p>支え合い事業において、各地区の地域課題として多く挙がっているものをいくつか示してほしい。</p>	<p>市としても、高齢者の生きがいづくりはフレイル予防の観点から重要と考えており、支え合い事業を通してシルバー人材センターとの情報共有等連携を図っていききたい。 多く挙がっている地域課題は以下のとおり。 ①高齢者への対応・認知症の理解促進 ②移送支援・買い物難民への支援 ③生活支援（例：ゴミ出し、除草、電球交換等）の取組の不足 ④世代間交流の機会喪失 ⑤集いの場の男性参加者が少ない</p>
	<p>複数年にわたる取組は、目標達成度を測る評価はしているか。</p>	<p>各地域において、年度毎に取組の進捗状況に対する振り返りを行い、地域で自己評価している。振り返りの際は、市及び地域包括支援センターも関わり、進捗状況を共有している。</p>

(1)射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について

意見	質問	回答
	<p>地域課題会議（以下：課題会議）未実施の2地域がスタートができない問題点は何か。 市が開催している研修会や講演会に、未実施の地域からの出席はあるか。</p>	<p>課題会議未実施地区のうち、1地区は、以前から様々な支え合い活動を実施しているが、支え合い事業の申請にはつながっていない。1地区は、既存のサロン等の集まりを生かして支え合い活動をしているが、地域の規模が大きく、意見の集約や集まることが容易ではなく、課題会議の開催に至っていない。 未実施の地区からも講演会や研修会には参加いただいている。</p>
	<p>R2. 3月に申請された片口地区が未だに地域課題会議調整中なのはなぜか。（R2. 9月に申請のあった同じ東包括の海老江地域は実施済になっているが。）</p>	<p>コロナ禍において、大勢で集まる機会を設けることが難しいと地域が判断されたため。現在は来年6月の地域課題会議開催に向け、定例会を開催し、協議を進めている。</p>
<p>地域毎に住民が自ら課題を共有・認識し、その課題解決のための目標を定めたうえで計画を策定し、取り組むことは、住民の主体的な活動を促すことになるので、とても効果的であり手法として素晴らしい。</p>		
<p>庄西地区では、昨年より100歳体操及び脳トレを支え合い事業の主軸としながらも、ふれあいサロンの統合に向けて進めている。 第3層生活支援コーディネーターが地域内のすべての福祉事業に関わることで、広く活動を展開している。</p>		

(2) 射水市地域支え合いネットワーク事業の周知について

意見	質問	回答
<p>顔が見える関係づくりが大事であるので、地域毎に声掛け運動を行ったらよい。また、市社協や地区社協の担当者（福祉委員等）が、毎回声掛けをしあう体制を作っていくことが期待される。</p>		
<p>周知方法に関しては素晴らしいと思う。 「ワシとこ自慢」と題して、活動の動画をケーブルテレビでシリーズ放送するのはどうか。</p>		<p>来年度、活動の様子を記録した動画作成を企画している。 また、今後、第2層生活支援コーディネーターと連携し、支え合い事業の広報誌（QRコード付帯）を発行するとともに、ホームページの充実、市公式LINEの活用等、若者世代への周知も図っていく予定である。 なお、広報誌等の作成においては、配色やメリハリを意識し、より効果的なものになるよう努めたい。</p>
<p>活動事例集は分かりやすく、より良い活動の参考となる。 事業チラシ及び広報いみず10月号について、内容は良いが、もう少し色を使ってメリハリをつけた方がよいのでは。</p>		
<p>関わっている人だけが事業を知っている仕組みではなく、住民みんなに浸透していくよう、進めていく必要がある。 事業の目的が「介護予防」で終わるのではなく、子どもや障がい者、そして健常者も入れた住民が住民を支えるものとして伝わればよい。</p>		
<p>市公式LINEは、個人に情報発信されるため、とても有効だと思う。</p>		
<p>実施地区一覧表は、分かりやすくまとめられていて見やすいと思う。</p>		

(3) 第3層生活支援コーディネーター研修会について

意見	質問	回答
<p>研修は、それぞれの地域で活躍するボランティアの方々や地域の各種役員の方々にも参加していただき、広く地域住民の支え合いの輪を広げることが大切かと思う。各地域で、元気な高齢者や仕事を引退された方々の中で、医療・福祉関係で仕事をしておられた方に声掛けをし、「地域共生社会」構築に向け、担い手を確保していくべき。</p>		
<p>他の活動を聞いて、自地域の活動に組み入れるヒントができ、研修会、情報交換は大事だと思う。今後も研修会、講演会、情報交換会の開催をお願いしたい。 コロナが落ち着いたら、福祉バスを活用して、他の地域に出向いた交流会ができ、いつかQQPホールで射水市全体の交流会ができればよい。</p>		
<p>第3層生活支援コーディネーターの市民への対応がカギとなる。”ヒト”が重要であり、誰を選任するか、またそのスキル・資質向上の取組が不可欠である。</p>		
<p>10/20(水)「地域が輝く支え合い～コロナ広げる。ココロ広げる～」講演会は、庄西地区第3層生活支援コーディネーター3名で出席し、勉強、学習して、地域の活動に活かしていきたい。</p>		
<p>とてもよい取組なので、これからも継続されることを希望する。</p>		